

目的

那珂川のアユ資源を持続的に活用するためには、漁獲の動向を把握した上で適正な漁場運営を行う必要がある。そこで2024年度も引き続き、那珂川におけるアユの漁獲状況を調査した。

材料および方法

**友釣りによる漁獲状況** 栃木県那珂川漁業協同組合連合会傘下の3漁協に対し、調査票150枚を前年度の賦課金納入者数の割合に応じて配布した。各漁協がそれぞれ選定した調査員に対し、2024年6月1日の釣り解禁日から11月30日までの間、釣行した地区（本流7地区および4支流の計11地区に分類；図1）および釣獲尾数（釣果なしも含む）の記録を依頼した。無記入の調査票は、出漁日数を0として扱った。調査票の回収率は46.7%であった。これらのデータおよび漁業承認証あるいは遊漁承認証の発券枚数から、那珂川における全出漁者数および漁獲量等の推定を行った。

**投網による漁獲状況** 釣りと同様の方法で調査票50枚を配布し、漁獲状況及び漁獲重量の調査を行った（投網は7月10日から地区ごとに順次解禁）。調査票の回収率は48.0%であった。

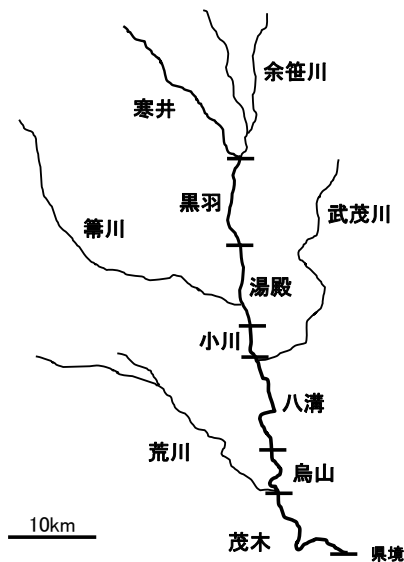


図1 那珂川における釣獲地区の区分

結果および考察

**釣れ具合・獲れ具合** 漁期全体での釣れ具合は11.9尾/人/日で、平年値（1998年から2023年までの平均、9.5尾/人/日）よりも2.4尾上回った（図2）。全ての月において釣れ具合が平年値を上回っており、例年では

徐々に低下する9月以降も釣れ続けていたことが特徴的であった（図3）。

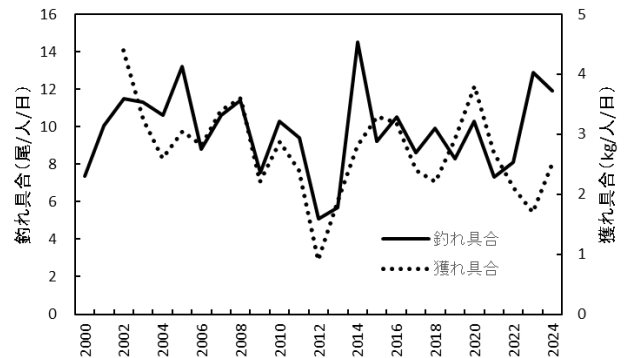


図2 釣れ具合および獲れ具合の推移

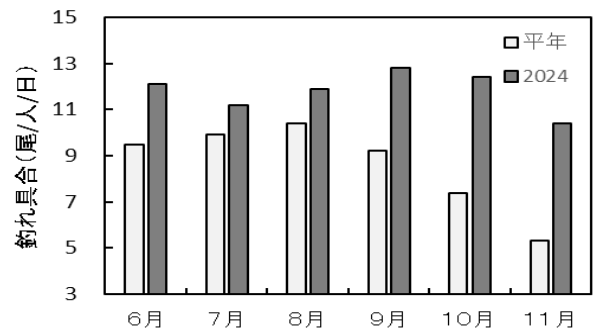


図3 月別の釣れ具合の推移

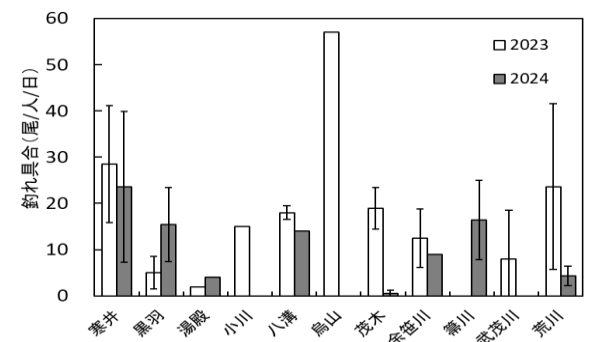


図4 地区別の釣れ具合（解禁日）

（エラーバーは標準偏差を示す）

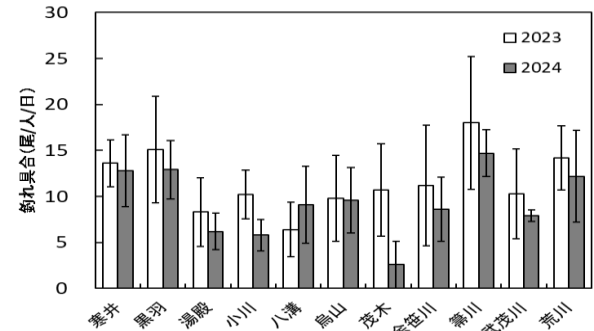


図5 地区別の釣れ具合（漁期全体）

（エラーバーは標準偏差を示す）

解禁日の釣れ具合は 14.6 尾/人/日と平年値 (9.2 尾/人/日) より高かったが、地区による差が大きく、本流の上流部や箒川が良好であった (図 4)。

漁期全体を通じた地区別の釣れ具合では、支流の箒川 (14.7 尾/人/日) をはじめ、荒川や、本流の上流域である黒羽地区、寒井地区では好調であったが、本流下流の茂木地区で 2.6 尾/人/日と低迷するなど、地区ごとのばらつきは大きかった (図 5)。

投網による獲れ具合は、2.5kg/人/日で前年 (1.7kg/人/日) よりも多く、平年値 (2.6 kg/人/日) と同程度であった (図 2)。

**出漁日数** 釣りの出漁日数は 9.5 日/人で、前年 (9.3 日/人) よりもわずかに増加したが、平年値 (18.7 日/人) の 50%程度であった。一方、投網の出漁日数は 9.3 日/人で前年 (11.2 日/人) および平年値 (11.6 日/人) を下回った (図 6)。

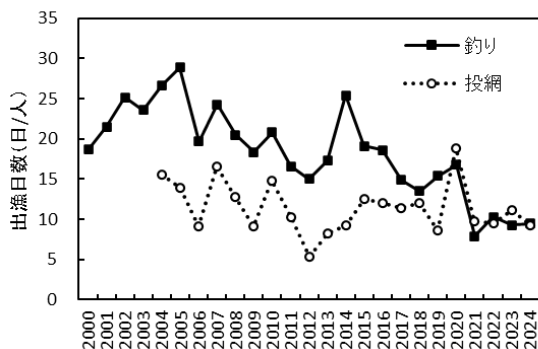


図 6 釣りおよび投網の出漁日数の推移

**釣獲尾数・漁獲量** 釣りによる釣獲尾数は、136.8 万尾で前年 (197.0 万尾) よりも大きく減少し、過去 10 年の平均 (186.7 万尾) から大きく下回った (図 7)。

また、釣りによる漁獲量は 69.8t で前年 (126.7t) から大きく減少しており、平年値 (173.8t) から依然として低い水準にあった (図 7)。

地区別漁獲量は、支流の箒川が 26.0t と全体の 4 割近くを占めるとともに、本流では上流部に位置する寒井地区 (13.2t) と黒羽地区 (11.1t) が大部分を占め、湯殿から下流では極端に少ない状況にあった (図 8)。

投網による漁獲量は 33.6t で、前年 (35.2t) をわずかに下回り、過去 3 番目に少なかった (図 7)。

地区別では、支流の箒川と荒川が多く、これらで全体の 3/4 近くを占めた (図 9)。本流では、前年度に比較的漁獲量が多かった茂木地区も含め少なかった。

**出漁者数** 釣りの出漁者数は 6.4 万人で前年 (7.7 万人) より少なく、最も少なかった 2021 年を下回り、過去最低となった (図 10)。

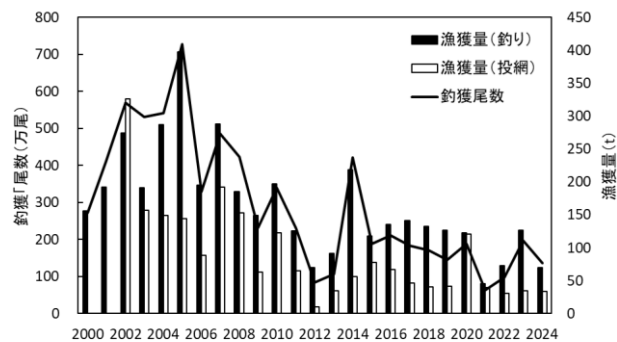


図 7 釣り・投網による漁獲量および釣獲尾数の推移

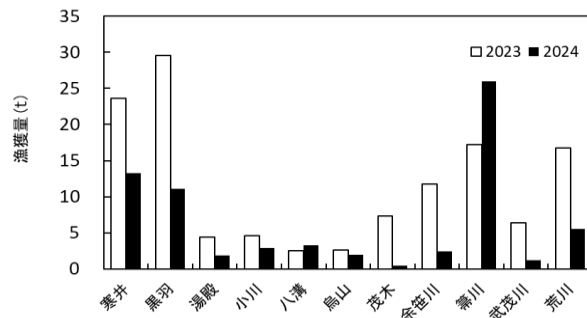


図 8 地区別の漁獲量 (釣り)

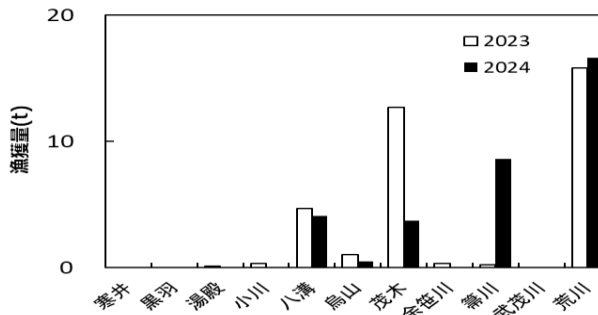


図 9 地区別の漁獲量 (投網)

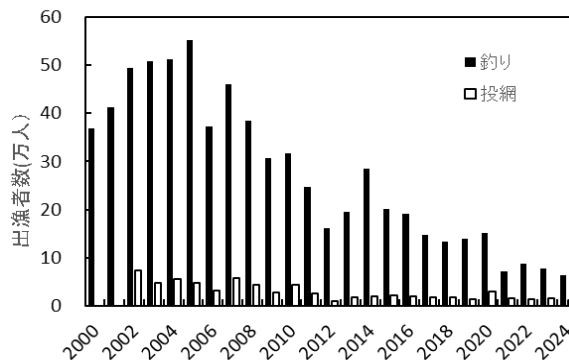


図 10 釣りおよび投網出漁者数の推移

なお、2024 年の調査結果では水系全体でみると漁期中を通じた釣れ具合は良好であったが、出漁者数が少なく、これに伴い漁獲量も低迷した。この理由として、本流中下流部を中心に夏期の猛暑による高水温や渇水の影響が強く、釣果が安定した漁場が例年以上に限られていたことが影響したものと考えられた。

(指導環境室)